

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成25年11月28日 (2013.11.28)

【公表番号】特表2013-515607(P2013-515607A)

【公表日】平成25年5月9日 (2013.5.9)

【年通号数】公開・登録公報2013-022

【出願番号】特願2012-547133(P2012-547133)

【国際特許分類】

B 0 1 J 4/02 (2006.01)

B 0 1 F 15/04 (2006.01)

A 2 3 L 2/00 (2006.01)

B 6 7 D 1/10 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 4/02 B

B 0 1 F 15/04 C

A 2 3 L 2/00 X

B 6 7 D 1/10

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月9日 (2013.10.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

具現された装置では、第 2 のチャンバ 1 2 0 の濃縮部 1 2 6 は第 1 のチャンバ 1 1 0 の混合部 1 1 4 と流体的に連通している。図 1 では、流体連通は濃縮物導管 1 4 0 を介する。濃縮物導管 1 4 0 はチューブ、パイプ、チャネル、ホース、通路、ダクト、トンネル、トラフ、又は第 2 のチャンバ 1 2 0 の濃縮部 1 2 6 から第 1 のチャンバ 1 1 0 の混合部 1 1 4 内へと流体を流すことができる部品の任意の組み合わせであってよい。濃縮物導管 1 4 0 は他のアイテム、例えば濾過器、計量器、絞り、圧力変換器、逆流防止弁、又は第 2 のチャンバ 1 2 0 から第 1 のチャンバ 1 1 0 への流体の流れの速さ、圧力、及び方向を変更することができる他の任意のアイテムを含んでもよい。随意選択的な逆流防止弁が図 1 に示されているが、これらは単に例示を目的とするものである。逆流防止弁 1 4 4 は、第 2 のピストン 1 2 2 の進出により濃縮物が第 2 のチャンバ 1 2 0 の濃縮部 1 2 6 から押し出された後にこの濃縮物が逆流するのを防ぐ。逆流防止弁 1 4 2 は、第 1 のピストン 1 1 2 の進出中における濃縮物の逆流を防止する。第 1 のピストンと機械的結合状態にある追加的なピストンを備えた追加的な濃縮物チャンバがあってもよく、そのような追加的な濃縮物チャンバもまた第 1 の円筒の混合部と流体的に連通してよいことが、想定される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

図 3 は、提供される装置の別の実施形態を例示する。図 3 は、第 1 のチャンバ 3 1 0、第 2 のチャンバ 3 2 0 A、及び第 3 のチャンバ 3 2 0 B を含む、装置 3 0 0 を示している。溶媒源 3 5 0 は溶媒導管 3 5 2 及び逆流防止弁 3 5 4 を通して第 1 のチャンバ 3 1 0 の

混合部 3 1 4 と流体的に連通している。第 1 の濃縮物源 3 6 0 A は濃縮物導管 3 6 2 A 及び逆流防止弁 3 6 4 A を介して第 2 のチャンバ 3 2 0 A の濃縮部 3 1 6 A と流体的に連通しており、第 2 の濃縮物源 3 6 0 B は濃縮物導管 3 6 2 B 及び逆流防止弁 3 6 4 B を介して第 3 のチャンバ 3 2 0 B の濃縮部 3 1 6 B と流体的に連通している。更に、濃縮部 3 1 6 A は、逆流防止弁 3 4 2 A 及び 3 4 4 A を備える流体導管 3 4 0 A を通して第 1 のチャンバ 3 1 0 の混合部 3 1 4 と流体的に連通しており、濃縮部 3 1 6 B は、逆流防止弁 3 4 2 B 及び 3 4 4 B を備える流体導管 3 4 0 B を通して第 1 のチャンバ 3 1 0 の混合部 3 1 4 と流体的に連通している。第 1 のピストン 3 1 2 が第 1 のチャンバ 3 1 0 を混合部 3 1 4 と駆動部 3 1 8 とに区分する。駆動部 3 1 8 は逆流防止弁 3 7 6 を含む流体入力導管 3 7 2 及び逆流防止弁 3 7 8 を含む流体出力導管 3 7 4 と流体的に連通している。第 1 のピストン 3 1 2 は第 2 のピストン 3 2 2 A 及び第 3 のピストン 3 2 2 B の両方と機械的結合状態にある。第 2 のチャンバ 3 2 0 A は第 3 のチャンバ 3 2 0 B と寸法、容積、及び形状が異なっておりよい。同様に、第 2 のピストン 3 2 2 A は第 3 のピストン 3 2 2 B と寸法及び形状が異なっておりよい。第 1 のチャンバ 3 1 0 の混合部 3 1 4 もまた、（逆流防止弁 3 5 6 を備える）溶媒 / 濃縮物混合物導管 3 5 8 と流体的に連通している。図 3 には示されないが、第 2 のピストン及び第 3 のピストンは、第 1 のピストン 3 1 2 に対してそれぞれ独立に異なる種類のリンクを有することができると想定される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の容積を有するとともに少なくとも 1 つの外壁を有する第 1 のチャンバと、
第 2 の容積を有するとともに少なくとも 1 つの外壁を有する第 2 のチャンバと、
前記第 1 のチャンバ内に摺動可能に配置されて前記第 1 のチャンバを混合部と駆動部とに密閉式に区分する第 1 のピストンと、
前記第 1 のピストンに結合されるとともに、前記第 2 のチャンバ内に摺動可能に配置されて前記第 2 のチャンバ内の濃縮部を密閉式に画定する第 2 のピストンと、を含み、
前記濃縮部が前記混合部と流体的に連通している、装置。